

「水循環都市東京宣言」

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とし、水都東京にふさわしい健全な水循環を維持、または回復して、世界一の水循環都市東京を実現したいと考える。

水循環都市とは、大地で雨を受けとめ、生命を育む森を守り、常に人々の暮らしとともにある水環境を未来世代へよりよく引き継げるように不断の努力を続ける都市である。

そのため、東京においては、以下の視点を大切にして水循環が再生されなければならない。

- 一、自然の力を生かした水循環の再構築
- 二、歴史的な資産の活用
- 三、身近な水循環の復活

そして私たちは、民・産・学・官が協力し、後世に誇れる新しい歴史資産を形成するとともに国際貢献にも資するよう、以下の具体策が実現されることを目指したい。

1. 玉川上水に河川水を流し、その機能を復活させる。そのため、源流域の森林を適正に管理するとともに、荒川の上流から多摩川への自然流下などを多面的に検討し、実現する。
2. 復活された玉川上水からのきれいな水の流れを利用し、水都東京への更新を促進する。
 - イ. 江戸城外濠を浄化し、歴史的景観の中で水とふれあえ憩える空間として再生する。
 - ロ. 日本国道路元標のある日本橋と日本橋川の歴史的景観と美しさを再生し、世界に誇れ、品格のある水辺空間として整備する。
 - ハ. 江戸城外濠を構成していた汐留川の面影が感じられるように都市水路を整備し、その一貫として新虎通りにせせらぎ水路を象徴的に整備する。
- ニ. 水環境が改善される神田川下流域において、まちづくりと一体となった治水対策を講じる。
- ホ. 玉川上水は、渋谷川の源流の一つであり、新国立競技場の敷地内を流れていた。前東京大会で暗渠となったが、渋谷川を開渠（せせらぎ水路）として復活させる。
- ヘ. 玉川上水分水網に水を流し、下流の小川を再生する。

3. ゲリラ豪雨対策として都市雨水処理施設の整備を急ぐとともに、河川・下水道一体の実時間観測・浸水予測情報を人々に提供する最新鋭の仕組みの開発を推進する。
4. 緊急時における河川水利用規則も含め、首都直下型地震等の際の延焼拡大防止、生活・復興用水確保に資する水循環システムを構築する。
5. 日本の水循環インフラとそのシステムは、海外インフラビジネスにおいても国際貢献の一翼を担う重要な分野である。産学官が連携して、訪日者に模範となる施設やシステムを紹介するとともに、海外に適用・展開できるよう研究開発や仕組みづくりを行う。
6. 水都東京にふさわしい歴史・文化・伝統の振興を図り、世界の人々にも披露する。
7. 日本の土木遺産や建築遺産は、世界に紹介されるべき歴史資産である。その象徴として、玉川上水などの歴史資産が世界遺産になる努力と準備を行う。
8. 河川や運河の耐震化や海面上昇対策を急ぐとともに、舟運で周遊できるよう施設を改良する。非常時の円滑な機能を実現するため、防災船着場を常日頃から開放する。

以上の視点と具体策が、東京都が作成する水マスタープランや、「水循環基本計画」に基づいた東京に係る流域水循環計画に位置づけられ、関係者が協力して行動を起こすことを期待する。

水の歴史とともに歩んできた東京を、美しく再生して後世に引き継ぐことが、私たちに課せられた使命であるから。

平成27年8月4日

水循環都市東京シンポジウム実行委員代表一同